

おばあちゃん  
これで良かったんだよね  
～家族が納得できる看取りケア～

**施設での最期を希望する入居者・ご家族**

誰もが心から「これで良かった」と  
感じられる看取りケア

**課題**

- 「生活の場」である特養で終末期に何が出来るのか
- ご家族が後悔しないような対応が出来るのか

**看取り検討委員会(ぬくもり)を発足**

メンバー:施設長、介護士、看護師、ケアマネ、  
管理栄養士、相談員

**事例① 看取りから一転、救急搬送**

Aさん/92歳/女性

- ・家族は在宅介護を強く希望していたが、本人のADL低下により、やむを得ず入所
- ・徐々に全身状態が悪化、食事が摂れず浮腫が著明となった
- ・家族は施設での看取りをずっと望んでいたが、最期の最後に状況を受入れることが出来ず、急遽病院受診を希望した

**事例② 口から食べる楽しみへの挑戦**

Bさん/88歳/男性

- ・脳梗塞後遺症の嚥下障害で胃瘻造設
- ・本人は経口摂取を強く望んでいたが、在宅では胃瘻が中心で、楽しみ程度の経口摂取しか許可されていなかった
- ・入所を期に本人の望む「食べる意欲」をくみ取り、嘱託医に相談し経口摂取に踏み切った

**事例③ 住み慣れた我が家への帰宅**

Cさん/83歳/女性

- ・在宅での看取りを望んでいたが、実現は不可能な状況であった
- ・水分も摂れなくなり傾眠傾向が強く、終末期の段階となっていた
- ・突然家族から、「家に連れて帰りたい」との申し出があった

